

焼却灰受け入れ正式要請

伊賀の住民賛否交錯

震災がれきの県内受け入れは、鈴木英敬知事が十三日、伊賀市予野の廃棄物処理会社「三重中央開発」に焼却灰の受け入れを正式に要請したことで新たな段階に入った。灰の処理先が決まれば、受け入れに向けて前進するが、地元住民からは賛否の声が交錯した。同社を訪れた鈴木知事は「被災地にはがれきが山積みになったまま、少しでも処理に協力したい。多くの県民も同じ思いだと感じている」と訴えた。同社の金子文雄社長

くで農業を営む男性(七四)は「放射能汚染や風評被害が本当にならないか」と不安を口にした。無職女性(七七)は「放射線の安全性が担保されるなら受け入れていい。被災地の復興に協力したい」と話した。(宿谷紀子、安部伸吾)